

JPCA・APGデータベースについて

一般社団法人 日本写真著作権協会

データベースの概要

- ◎ 一般社団法人日本写真著作権協会（以下、JPCA）では、2003年より、正会員団体である9団体について、その団体に加盟する写真家約24000名に著作権者IDを附番し、データベースによって公開してきました。このデータベースにより、写真家の個人情報をもつ加盟団体へのアクセスが可能となります。

表示項目

氏名
著作権者ID
所属団体
（以下任意）
生年月日
専門分野
経歴
コメント
URL
E-Mail
代表作品

<正会員団体>

公益社団法人日本写真家協会
公益社団法人日本広告写真家協会
一般社団法人日本写真文化協会
日本肖像写真家協会
一般社団法人日本写真作家協会
全日本写真連盟
一般社団法人日本スポーツプレス協会
日本自然科学写真協会
日本風景写真協会

データベースの概要

- このデータベースは年次で新入会員等のリストを各会員団体から提出していただき、更新作業を行っております。
- 各正会員団体により、会員管理の内容は異なりますが、例として、日本写真家協会では、物故等の会員についても、できる限りフォローするようにしております。ただし、相続者が不明となってしまう場合も多く、写真利用の多い一部の写真家に限定されてしまう傾向があります。
- データベースの課題としては、各正会員団体への写真家の積極的な加入に基づいて、組織化を進めることが重要です。日本的な権利者のあり方として、組織に属しながらない傾向がありましたが、現在の創作環境において個人での対応には限界があり、組織に加入して情報の共有、対応の一元化と共に、集中処理に参加することが必要だと考えられます。
- 現在は継続して業務を行う写真家については組織化も進んできております。また一方で撮影を継続的な業としない著作者、つまり専門ではないが取材などの折に写真を撮っている方やアマチュアの増加もあり、そのような著作者への対応が検討課題となっております。

データベースの概要

The screenshot displays the JPCA (Japan Photographic Copyright Association) website. The header features the JPCA logo and navigation links: トップページ (Home), JPCAのご案内 (About JPCA), サービスのご案内 (Our Services), and FAQ. The main content area is divided into several sections:

- マイページにログイン** (Login to My Page): A link for users to log in.
- 写真家を検索するならこちらから** (Search for Photographers): A link to search for photographers.
- 写真作品を検索するならこちらから** (Search for Photograph Works): A link to search for photograph works.
- 教育用に写真を利用するならこちらから** (Search for Educational Use of Photos): A link to search for photos for educational use.

Below these are links to **APG** (Association of Professional Photographers of Japan) and **JAPACON** (Japan Association of Professional Photographers).

The **トピックス** (Topics) section contains several announcements:

- 著作権問題を中心とした現在取り組んでいる諸問題についての話題をお送りいたします** (Topics on copyright issues and other current issues).
- 緊急声明「言論・表現の自由」を侵害する「特定秘密保護法案」に反対します** (Emergency statement opposing the 'Special Security Information Protection Bill' which infringes on freedom of speech and expression).
- デジタル著作権の権利処理ガイドラインについて** (About the Digital Copyright Rights Management Guidelines).
- 「Google+ブック検索」の権利処理に関する声明** (Statement regarding the rights management of Google+ Book Search).
- 「Google+ブック検索」の権利処理に関する声明** (Statement regarding the rights management of Google+ Book Search).

The right sidebar features a **JPCA フォトリリー** (JPCA Photo Release) section with various photo releases, including one by 田沼武能 (Tanuma Takanori).

データベースの概要



○通常、会員管理されている方の情報は次の通りです。

- ・本名
- ・住所・連絡先
- ・電話
- ・メールアドレス
- ・生年月日
- ・など

※連絡先としてメールアドレスの登録が進んでおり、メールアドレスでの連絡が通常化すると、事務経費の節約、連絡の迅速化などのメリットがありますが、一方で現住所の確認が取れない、簡単にメールアドレスは変えられるので、所在の確認が難しくなるという問題も生じてきます。メールアドレス、携帯電話が連絡先として定着することへの課題と言えるでしょう。

著作権管理団体への照会に関する意見

写真家の所在についての問い合わせは、比較的多くあります。その場合、正会員団体の会員であれば一定の手続きを踏んで、著作者を紹介いたします。一定の手続きの例は下記の通りです。

- ・どのような目的でどなたを探しているのか、ファックスまたはメールなど、書面で申し入れていただく。
- ・その内容を本人に伝え、連絡先を教えてよいかの諾否を伺う。
- ・連絡先を教える、もしくは本人から連絡させる、もしくは本人の意思により、連絡先を開示しない。

ただし、どこにも属していない写真家の場合、何らかの形でこれまで接触のあった写真家であれば、会員以外でも上記のような手順で連絡先を教えますが、まったくわからない場合は探索の仕様がありません。この場合はお詫びしてお断りしております。ただ、正式に会員として登録されていない写真家の場合、事務局員、または役員の個人的なつながりが多く、極めて不安定な情報がほとんどです。

著作権管理団体への照会に関する意見

写真分野については、写真はどなたでも撮影できるものであり、すべての人々が著作権者であると言ってよいと思われます。そして著作したことを意識しない権利者が多くを占める現状があります。このような中、職業写真家を始めとした、意識的に著作を行っている写真家については、自らその所在を明確にし、また写真にクレジットを入れるなど、著作者としての意思表示を明確にすることが必要であり、当協会としてもそのような方向性を奨励しております。

ただ、問題は著作を意識していない、つまり、権利者としての意識が薄い権利者によって撮影された写真の場合、もともと許諾に対する認識が薄い、もしくはないために、その許諾を得ることが極めて困難である、という点です。

写真はデジタル化によって、より多くの方々が失敗なく、様々な状況で写真を撮影することが可能となりました。今後、技術の進歩によってその他の分野においても著作者は増え続けるでしょう。

その時にどのような利用の形態と権利処理が必要であるかについて、検討が必要となってきたと考えられます。

今後の取り組みに対する意見

<著作者不明の場合の権利処理について>

- ・経年によって、著作者が不明となる場合についての対応が必要。
- ・もうひとつは、最初から著作したという意識のない著作者による著作物の利用についての対応が必要。
- ・集中管理を進めてゆくことが非常に重要。
権利所在データベースの問題は集中処理と共に考えてゆくことが適当。
- ・アナログからデジタルへのコンテンツの移行を促進し、創作の環境を改善しつつ、軽微な利用なども含めた全体的な利用促進をはかるべき。

今後の取り組みに対する意見

- ①まず、一元的に権利所在を明確にするデータベースが必要だと考えられます。これは個人情報を開示するものではなく、あくまで所在を明確にする目的です。このような最初の探索については電子的処理が件数や内容から言っても効率的だと考えられます。
- ②JPCAのデータベースは連携を前提としております。今後、①のようなデータベースが構築された場合、協力、連携することが可能です。現時点では次の様な連携を行っております。
 - ・APGデータベース(美術、写真、グラフィックの総合データベース)
 - ・JRRC管理著作物データベース
- ③様々な理由で権利者が不明であった場合の利用方法を、現在の裁定制度の利用を始めとして、改善、新設してゆくべきだと思われます。

今後の取り組みに対する意見

The screenshot displays the APG Japan website's author search interface. At the top, the APG logo and navigation links for '作品検索' (Work Search), '著作権者検索' (Copyright Holder Search), and 'ID登録者ログイン' (ID Registered User Login) are visible. The '著作権者検索' (Copyright Holder Search) tab is selected. Below the header, a blue box contains the instruction: '条件を設定し、「検索」ボタンをクリックして下さい。' (Set conditions and click the 'Search' button). The search form includes several fields: '氏名' (Name) with a '部分一致で検索' (Search by partial match) option; '著作権者ID' (Copyright Holder ID) with a '完全一致で検索 (例: HJPI330199999999)' (Search by exact match) option; 'フリーワード' (Free word) with a 'プロフィールの経歴、コメントから部分一致で検索 (例: ○○買受買)' (Search by partial match from profile history, comments) option; '団体' (Organization) with a dropdown menu and a '所属団体で絞り込み' (Narrow down by affiliated organization) option; and '都道府県' (Prefecture) with a dropdown menu and a '都道府県で絞り込み' (Narrow down by prefecture) option. A '検索' (Search) button is located at the bottom of the form. The footer of the page reads: 'Copyright©1999-2009 Japan Art, Photograph and Graphic Design Copyright Organization All Right Reserved.'

今後の取り組みに対する意見

<APGデータベースについて>

2003年のJPCAデータベース開始時より、美術、写真、グラフィックが連携したAPGデータベースが稼働しています。

この連携は、文化庁が行ったJCIS実証実験の成果を引きついで、当初からデータベースの構想が作られたために可能となりました。

APG-Japanという組織自体もJCIS構想実現のために設立されたものです。

このことにより、

視覚芸術3団体(日本写真著作権協会(写真)、日本美術家連盟(美術)、美術著作者連合(グラフィックアート))は負担の少ない形で画像の表示も含めたデータベースを運用することが可能となりました。

※JCIS構想

複数のデータベースを連携させて、統一の検索インターフェイスを実現するための異分野間のデータベース連携実証実験。